

2002 . 6

白石区民のページ page

白石区インターネットホームページ

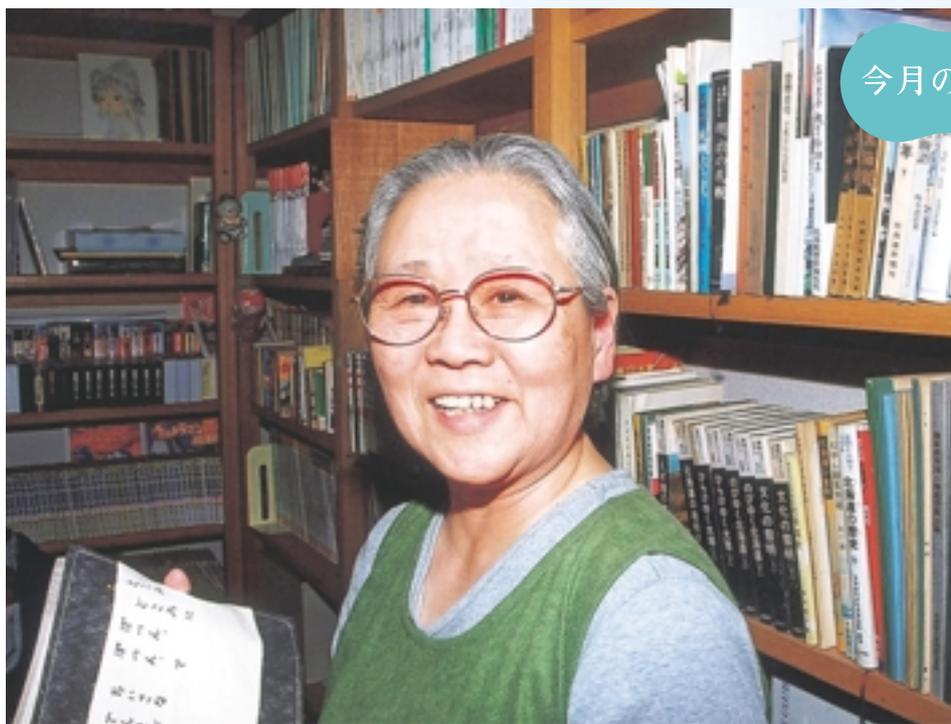
<http://www.city.sapporo.jp/shiroishi/>

白石区民公式サイト「shiroishi.org」

<http://www.shiroishi.org/>

「とことこ、とことこ、さ
やかちゃん。ひらひら、ひら
ひら、はっぱちゃん」。小さ
な女の子が落ち葉の上を歩い
ている。真ん丸い顔に二本の
足が付いているだけの主人公
だ。白い布の上に茶色や黄色
の生地が刺しゅうされ、黒の
マジックで文字が手書きされ
ている。こんな単純な絵でも
子どもたちは喜んでくれるん
ですよ」と話すのは、この布
絵本の作者武田慶子さん。

話す。確かに作品を見ると、
どれもこれも普段の生活の中
の会話であったり、子ども
の行動であったりする。
武田さんが長男の誕生を機
に布絵本の制作を始めたのは
昭和四十一年のこと。絵は下
手だから、アップリケなら大
丈夫かも」と思ったそとだ。
当初は出来るたびに知人
にプレゼントしていたとい
う。平成元年からは、市内の地区
センターなどから布絵本の作
り方講座の講師に招かれるよ
うになった。西岡図書館では
十年間にわたってボランティア
アで講師を務めた。絵がうま
くなくても子どもに受け入れ
てもらったことが自信になっ
た」と活動を長く続けること



今月の人

布絵本を作り続けて三十六年

武田 慶子さん (七三)

(中央在住)

私の布絵本は育児体験記みた
いなもの。子どももささいなし
ぐさが物語のモデルなんです。

ができた理由を話す。
武田さんがこれまで制作し
た布絵本は三百冊を超える。
現在は一年に三冊のペースで
制作しているが、「作りたい
作品がたくさんあって困って
いるのよ」と笑う。小学生の
ころ、あさるように文学全集
を読んだという。それを自分
で脚色して妹に聞かせたこと
もあった。小さな子どもを見
ているだけで物語が出来てし
まう、ちょっとしたじくさが
目に留まる。こうした彼女の
感性は、本好きだった少女時
代に培われたのかもしれない。
「これからもずっと、小さ
な子どもたちと触れ合ってい
きたい」。武田さんの「少女
時代」はまだまだ続く。

編集 白石区役所総務企画課広聴係
☎003 8612
札幌市白石区本郷通3丁目北1 1
☎861 - 2400 内線224
FAX860 - 5236